

ランベス・コール

人間の尊厳

私たちの主イエス・キリストの父なる神が、ほめたたえられますように。神は、豊かな憐れみにより、死者の中からイエス・キリストの復活を通して、私たちが新たに生まれさせ、生ける希望を与えてくださいました。
1ペトロ 1:3

1 宣言

- 1.1 神の良き賜物である創造の御業において（創世記 1:31）、人類は神に似せて造られ、神の配慮と愛によって祝福されている（創世記 1:26-28）。このことは、すべての人間に奪い去ることのできない尊厳を与えているⁱ。「私たちが他者と向き合うときはいつでも、神の無限の愛と栄光の反映を見るのである」ⁱⁱ。
- 1.2 私たちが神の恵みとすべての人間に対する神の誠実な愛を知るのは、キリストの宣教の働きにおいてである（ヨハネ 3:16、コロサイ 1:15-20、ローマ 5:18-19、1コリント 15:22、2コリント 5:14-17、1ペトロ 2:9）ⁱⁱⁱ。人類はキリストの復活によって生きた希望への新しい誕生を与えられる（1ペトロ 1:3; 2ペトロ 1:14）。神の像を担う者として、人間は神を愛し、互いに愛し合うように召されている（1ヨハネ 4:11）^{iv}。
- 1.3 神の被造物の素晴らしい多様性は、人間の多様性にも反映されている。すべての人間は、「計り知れない価値と尊厳の、唯一無二で深淵なる神秘」である^v。人間同士、そしてすべての被造物におけるこの多様性は、善であり、美である。聖霊降臨と黙示録 7:9の幻は、聖霊の一致の力において、それが神への奉仕と互いの利益のために用いられるとき、多様性がいかに神からの良い贈り物であることを示している^{vi}。
- 1.4 キリストだけが神の完全な姿である（ヨハネ 10:30、コロサイ 1:15-16）。すべての人間は神の愛から遠ざかり、神の姿を損なっている^{vii}。私たちは自らの罪と、十字架における罪への神の勝利を認める（1ペトロ 2:24、3:18; ローマ 5:8）。人間一人ひとりの尊厳を尊重し、敬い、保つには、罪を認め、悔い改め、赦すことが必要である。キリストのうちにこそ、聖霊の力によって、人間の完全な可能性を見ることができるのである^{viii}。新たに生まれるという賜物と、新しくされたアイデンティティの賜物において、キリストの体である教会は結び合わせられる。キリストによって贖われた民として、教会は神の像を担うように、地上におけるキリストの体となるように召されている（1ペトロ 3:9-10; ガラテヤ 3:28）。
- 1.5 従って、公同教会は、命は聖なるものであり、すべての人は尊重されるべきであり、命をそのすべての完全な状態で実現する条件を得るに値すると宣言する^{ix}。このような聖なる基準から、信仰的な反対はありえない。

2 確認

私たちは神の協力者であり（1コリント 3:9）、人間の命の賜物とすべての人間の尊厳を守るよう召されている^x。イエスが、自分を否定した者と裏切った者の足を洗ったように、私たちは彼の模範に従うよう召されている（ヨハネ 13:12-17、34-35）。私たちは、互いに愛し合うよう召されている。

神の子どもたちの尊厳に反する行為や態度は罪である。植民地主義、大西洋を横断してなされた奴隷貿易、そしてその他の権力の濫用といった遺産は、私たちの共同体に影響を与え続けている^{xi}。ある者は

豊かにされ、ある者は貧しくされてしまった。不公正な搾取構造の上に築かれた国際的な経済システムは、非人間的な状況を作り出してきた。土地、健康、教育の機会における深い不平等、若者の搾取、不公正な労働慣行、少数民族、移民、難民への虐待、人身売買の非人道性、宗教的迫害、良心の自由によって導かれた人々への圧力、LGBTQ 当事者への抑圧、ジェンダーに基づく暴力、戦争、紛争における性暴力は、そのような罪の一部の現れである。すべての人へのもてなしの心と、互いに誠実であることは、神的な共同体の鍵となるしるしである（1ペトロ 4:8-10）。

- 2.1 神は、命を与え合う異文化間の共同体を意図しておられる。それぞれの地域における宣教の努力と文脈的神学は、文化の中で、また文化を超えて、イエス・キリストの福音が深く受け入れられ、論じられ、採用され、適用されたことを証明している。^{xii} しかし、国際的なアングリカニズムはしばしば植民地主義の文脈の中で生まれた。私たちは、文化的、人種的優位性を前提とした非人間的な実践に関与した帝国主義的なアングリカニズムが存在し、現在もなお影響を与えていることを認める^{xiii}。人間の尊厳に対するキリスト者の取り組みは、神学の文脈の豊かな多様性を称えるものでなければならず、かつ残忍で搾取的な植民地主義にアングリカニズムが加担してきたことを考慮に入れる必要がある。
- 2.2 不公正な経済システムは、世界の最貧困層の社会に不公平な不利益を与えている^{xiv}。しかし、世界的なパンデミック、インフレの高まり、そして戦争によって、貧困の削減への取り組みは前例のないほど後退している^{xv}。現在進行中の気候非常事態（例えば、地球の気温上昇、海面上昇、海洋酸性化など）は、さらなる不安定性と食糧不安を生み出し、現在と将来の貧困撲滅と持続可能な開発への取り組みに困難をもたらすものである^{xvi}。2020年には、さらに1億2000万人から1億2400万人が極度の貧困状態に追いやられている^{xvii}。2022年には、6億5700万人から6億7600万人が極度の貧困状態に置かれると推定されている^{xviii}。これらの数字と、そのような貧困が女性や少女に不当に影響を与えることは、私たちにとって嘆かわしいことである^{xix}。人間の尊厳への責任的関わりは、教会が貧しい人や疎外された人と連帯し、貧しい人や疎外された人として不正義に対して証する立場に立つことを意味している。
- 2.3 ジェンダーや性に基づく偏見は、人間の尊厳を脅かすものである。現在の聖公会の統治機構、ことに各管区の自律性において、人間の尊厳と人間の性の関係については意見の相違があり、複数の見解が存在する。しかしながら、私たちは対話を深める中で尊厳が保護されることを経験している。「洗礼を受け、信仰を持ち、忠実な人はすべて、性的指向にかかわらず、キリストの体の完全なメンバーであり」、敬意をもって歓迎され、配慮され、扱われるべきであるというのがアングリカン・コミュニオン全体の意向である（1998年ランベス会議、1.10）^{xx}。慎重な神学的考察と識別の過程を経て、多くの管区は同性婚は認められないと断言し続けている。ランベス決議 1.10（1998年）は、「同性間の結合(union)の正当化または祝福」は推奨しないと述べた^{xxi}。他の管区は、慎重な神学的考察と識別の過程を経て、同性同士の結合／結婚を祝福し、歓迎している。私たちは主教として、これらの問題について深い意見の不一致がありつつも、耳を傾け、共に歩んでいくことに責任的に関わり続ける。

3 具体的な要望（コール）

聖書は、すべての人が神の姿に造られたことから、すべての人の固有の尊厳と平等性を証している。アングリカン・コミュニオンの大きな民族的、文化的多様性の中で、すべての人は神の姿に造られている。すべての人は平等である。実際、神の栄光ある贖いの最終的かつ完全な啓示において、世界の文化の豊かさを見出し整えることが神の意図である（黙示録 21:24）。それゆえ、2022年ランベス会議に集まった主教たちは、すべての被造物、文化、そして人間の尊厳を守るよう教会に呼びかける。私たちは、以下のようにコミュニオンに呼びかける。

3.1 贖いの行動のための大主教委員会（ACRA）の設置を支持する。

この作業は、少なくとも 4 つの焦点を持つことになる。第一に、カンタベリー大主教は、主要な世界の神学者（ここで私たちは、植民地支配と奴隷制を経験したコミュニティからのリーダーを想定している）の主宰のもと、コミュニオン内の神学者のグループとして ACRA を召集すべきである。ACRA は、イングランド教会チャーチ・コミッショナー (Church Commissioners for England) が作成した、大西洋を越えて行われた奴隷制度と教会との歴史的な関連についての報告書と法廷会計 (forensic accounting) を研究する予定である^{xxii}。

第二に、ACRA は、キリストにおける神の贖罪と、和解の務めを果たす教会の召命（2 コリント 5:17-19）という聖書の偉大な伝統に基づいた、贖罪と償いの全体論的神学を構築し、公表する^{xxiii}。私たちは、教会が植民地主義や奴隷制に関わったことに対するチャーチ・コミッショナーの対応が、この神学によって確実に形作られるよう、（チャーチ・コミッショナー理事会の議長として）カンタベリー大主教に要請する。

第三に、ACRA は、チャーチ・コミッショナーの働きと連携しつつ、贖罪の行動に対するコミュニオン全体の証しとなるような基準、共同体、プログラムを見定める。

ACRA は、カンタベリー大主教と全聖公会中央協議会 (ACC) 常置委員会に対し、四半期ごとに進捗状況を報告する。

3.2 アングリカン・コミュニオン全体で、社会的保護措置の資金援助のために行動すること

このような行動は、可能であれば、社会的保護措置のために政府に働きかけることを意味する。また、アングリカン・コミュニオンが社会的保護のために行動することも意味する。

第一に、関係する資料や専門家と相談しながら、次回の首座主教会議で、首座主教はそれぞれの文脈における社会的保護の意味と含意を共に探求すべきである^{xxiv}。社会的保護制度によって人生を変える可能性を証言するために、首座主教は率先して、地域の文脈と同様のことを実践するよう、それぞれの主教たちや教区を整えてゆく。

第二に、貧困は「多面的かつ統合的なアプローチを必要とする問題」であるため、経済的、政治的、社会的、環境的、制度的、そして霊的な資源を動員する必要がある^{xxv}。貧困、特に若者の貧困撲滅のための霊的で想像力に富んだアプローチを深めるために、私たちは ACC に、「アングリカン・イノベーション基金」 (Anglican Innovation Fund, AIF) の設立を呼びかける。この基金は、社会的保護に特に着目して貧困と闘うプロジェクトや事業を立ち上げる若者（18-30 歳）に、資金援助を分配するものである。3.1 と関連して、このイニシアチブは、ACRA とチャーチ・コミッショナーによる、奴隷制の歴史的不正義に対する応答の実践として、継続的な資金調達の可能性がある。

3.3 ジェンダーと同時に性の問題にも配慮した人間の尊厳の促進のため、アングリカン・コミュニオン事務局（ACO）の活動を拡張する。

私たちは、ACC（ACO の関連するネットワークと部門からの情報と、1998 年ランベス会議の決議 I.10 で提示された情報をもとに）に対して、ジェンダーだけでなく性の問題にも配慮した人間の尊厳に関する管区と管区間のビジョンと実践を促進するため、ジェンダー正義に関するその働きを拡大すべきかどうかを検討するよう要請する。ACC-19 では、この問題に関する管区および管区間の報告を受け、さらなる提言を行うべきである。

後注

- i. The Inter-Anglican Standing Commission on Unity, Faith & Order (IASCUFO), *Created in the Image of God: The Divine Gift and Call to Humanity: An Anglican Theological Anthropology: Unity, Faith & Order Paper No. 3* (London: ACC, 2021), 9, 12, 14–25, 42
https://www.anglicancommunion.org/media/460188/UFO_IASCUFO_Papers-3-and-4-God-So-Loved-the-World_v2_en.pdf Brian Brock and John Swinton eds. *Disability in the Christian Tradition: A Reader* (Grand Rapids: Eerdmans, 2012); World Council of Churches, *The Gift of Being: Called to Be a Church of All and for All* (2016) <https://tinyurl.com/7kyvdnrb> も参照。
- ii. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 24.
- iii. International Commission for Anglican-Orthodox Theological Dialogue (ICAOTD), *In the Image and Likeness of God: A Hope-Filled Anthropology* (“The Buffalo Statement”, 2015), 5–12. Lambeth 1998, I.10c; IASCUFO, *Created in the Image of God*, 75–77.
- iv. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 34–40.
- v. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 24.
- vi. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 10–11.
- vii. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 12, 50–57.
- viii. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 9–11, 30–35.
- ix. ICAOTD, *In the Image and Likeness of God*; Lambeth 2008, Section C (Human and Social Justice); Lambeth 1998, I.1, 2, 4, 5, 9, 14, 15; III.21, 22.
- x. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 26–30.
- xi. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 53–54. 以下を参照。Jeremy M. Bergen, *Ecclesial Repentance: The Churches Confront their Sinful Pasts* (London: T&T Clark, 2011); International Labour Organisation (ILO), *Walk Free*, and International Organisation for Migration (IOM), *Global Estimates of Modern Slavery Forced Labour and Forced Marriage* (Geneva: ILO Publications, 2022).
- xii. 以下を参照。Lamin Sanneh, *Translating the Message: The Missionary Impact on Culture* revd. ed. (Maryknoll: Orbis, 2009); Jehu H. Hanciles, *Migration and the Making of Global Christianity* (Grand Rapids: Eerdmans, 2021); William L. Sachs and Robert S. Heaney, *The Promise of Anglicanism* (London: SCM, 2019).
- xiii. 以下を参照。Rowan Strong, *Anglicanism and the British Empire* (Oxford: Oxford University Press, 2007); Ian T. Douglas & Pui-lan Kwok eds., *Beyond Colonial Anglicanism: The Anglican Communion in the Twenty-First Century* (New York: Church Publishing, 2000).
- xiv. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 52–54 参照。
- xv. Andrea Peer and Sevil Omer, “Global poverty: Facts, FAQs, and how to help” <https://www.worldvision.org/sponsorship-news-stories/global-poverty-facts>, August 23, 2021 (accessed June 10, 2022).
- xvi. UN, General Assembly, 73rd Session (18 October, 2018), Second Committee, Agenda item 24 (a), “Eradication of poverty and other development issues: implementation of the Third United Nations Decade for the Eradication of Poverty (2018–2027), 4. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 12–13, 58–67.
- xvii. <https://sdgs.un.org/goals/goal1> accessed June 10, 2022.
- xviii. 「極度の貧困」とは、1日1.90ドル以下で生活する人々のことである。Daniel Gerszon Mahler, Nishant Yonzan, Ruth Hill, Christoph Lakner, Haoyu Wu and Nobuo Yoshida, “Pandemic, prices, and poverty” <https://blogs.worldbank.org/opendata/pandemic-prices-and-poverty>, April 13, 2022 (accessed August 10, 2022). <https://www.un.org/en/global-issues/ending-poverty> accessed June 11, 2022 参照。気候変動と移民の類型の情報については、Intergovernmental Panel on Climate Change, Working Group III contribution to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change, “Climate Change 2022: Migration of Climate Change” (April 2022), 2-54 – 2-55;

3-96 – 3-109 参照。

https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/IPCC_AR6_WGIII_FinalDraft_FullReport.pdf accessed June 27, 2022

- xix. UN, General Assembly, 73rd Session (18 October, 2018), Second Committee, Agenda item 24 (a), “Eradication of poverty and other development issues: implementation of the Third United Nations Decade for the Eradication of Poverty (2018–2027)”, 3.
- xx. 1998 年ランベス会議、1.10 c, d
- xxi. 1998 年ランベス会議、1.10 e
- xxii. <https://www.churchofengland.org/sites/default/files/2022-06/Church%20Commissioners%20research%20report%20final.pdf> accessed June 28, 2022.
- xxiii. IASCUFO, *Created in the Image of God*, 75–77. IASCUFO, *God's Sovereignty and Our Salvation: An Anglican Theological Statement: Unity, Faith & Order Paper No. 4* (London: ACC, 2021), 82–84 参照。
- xxiv. 社会的保護とは、労働条件の劇的または衝撃的な変化から労働者を保護するために設けられた制度やシステムのことである。社会的保護とは、雇用主が従業員とリスクを共有することを意味する。このような保護は、例えば、年金給付、低利融資の提供、医療費の補助または無料化などの形で提供されることがある。「リスク共有」の概念に関するさらなる解説は、Truman Packard, Ugo Gentilini, Margaret Grosh, Philip O’Keefe, Robert Palacios, David Robalino, and Indhira Santos, *Protecting All: Risk Sharing for a Diverse and Diversifying World of Work* (Washington D.C.: International Bank for Reconstruction and Development/The World Bank, 2019) <https://bitly.ws/zBmR> June 21, 2022 参照。
- xxv. UN, General Assembly, 73rd Session (18 October, 2018), Second Committee, Agenda item 24 (a), “Eradication of poverty and other development issues: implementation of the Third United Nations Decade for the Eradication of Poverty (2018–2027)”, 3.